

## 経済研究所創立 50 周年記念公開シンポジウム報告

経済研究所は本年6月に創立50周年を迎えました。これを記念する行事として本研究所は、「日本経済の再生と新たな国際関係」を統一テーマに掲げて、昨年6月から連続講演会を開催してきました。

6月28日（土）には最大のイベントとして駿河台記念館で創立50周年記念公開シンポジウムを開催し、学内外から多数の方々に参加していただきました。石川利治経済研究所長と福原紀彦学長による挨拶の後、瀧澤弘和経済学部教授の司会でシンポジウムがスタートしました。

まず日本学術会議会長であり豊橋技術科学大学学長である大西隆氏が「科学技術政策と日本の将来」と題して基調講演を行いました。大西氏は、技術立国として発展してきた日本



基調講演をされる大西隆氏

が、今後さらに発展するために重要となる政策課題と課題解決に必要な科学技術の発展方向について、東日本大震災の経験を踏まえて示唆されました。

基調講演に続いて3名の講師による講演が行われました。土居丈朗慶應義塾大学教授は「わが国の税財政の行方」と題して、今後の税財政について語られました。キヤノングローバル戦略研究所の山下一仁氏は「農業立国に舵を切れ」という演題で、日本農業についての古い既成概念を払拭し、海外競争力のある強い農業づくりが可能であるとし、そのための方策を展開しました。若田部昌澄早稲田大学政治経済学術院教授は「アベノミクス、2年目の機会と試練」と題して、発動から2年目に入ったアベノミクスのチャンスとリス



静聴する会場のようす



パネルディスカッションのようす。左から、司会を務める瀧澤弘和本学経済学部教授、日本学術会議会長大西隆氏、土居丈朗慶應義塾大学経済学部教授、若田部昌澄早稲田大学政治経済学術院教授、キヤノングローバル戦略研究所研究主幹山下一仁氏、谷口洋志本学経済学部教授(経済学部長)

クを、より良い経済政策を実現するためにはより良い経済政策思想が必要という観点から評価しました。最後に4名の講演者に谷口洋志本学経済学部教授（経済学部長）が加わって、パネリスト間、さらにはフロアを交えて熱心な質疑が行われ、盛会の内に閉会しました。

経済研究所は、シンポジウムでの講演や、

それに先だって開催してきた連続講演会の成果を中心にした論文集を研究叢書特別号として来年度に刊行する予定です。講演者をはじめ熱心に聴講していただいた多くの皆さま方のご協力により、経済研究所創設50周年記念の一連の行事の成果が、文字通り日本経済の再生と、新しい国際関係の構築のために貢献できれば幸いです。

## 夏期工事について

今夏はバリアフリー化の推進とアメニティ向上を目的として、主に以下の2点の工事を行います。両工事とも利便性が高まると同時に、既存建物と馴染む意匠、安全性の確保に留意しています。

### ■ バリアフリー化の推進

#### 多摩キャンパス3号館1階西側・5号館1階北側自動扉化工事



工事予定の3号館1階西側の扉

昨年度までは各棟に支障なく入館できることを目的とした自動扉化の工事を実施していましたが、今年度からは建物内を移動しやすくなるような動線を意識した視点で自動扉化を実施します。

3号館には高層棟、中層棟ともに授業教室が多数あり、利用者は学生・教職員をはじめ多岐にわたっています。現在、モノレールから白門プロムナードを通して、通勤・通学する際、3号館へ入館するには、1階東側の自動扉を利用するしかなく、西側から入館する際には、車いすを利用される方に困難をきたしています。また、5号館裏の車いす専用の駐車場から5号館へ入館する際の最寄りの扉も自動扉ではありません。

そのため、本工事により既存の扉を撤去して、自動扉を設置することにより、車いすを利用される方が各棟内においてスムーズに移動できるようになります。

### ■ アメニティ向上

#### 多摩キャンパス4号館（サークル棟）トイレ改修工事

現在、4号館（サークル棟）は、のべ1,000人近くの学生が常時利用しており、今回は、トイレを全面的に改修します。

本工事は既存の和便器を撤去し、すべて洗浄型便座に更新し、自動水栓と温水器を設置することで利用者の利便性も高まり、清潔感も向上します。また、多目的トイレについてもオストメイト対応トイレや洗浄型便座を設置することで、オストメイトの方や車いすの方も安心して利用できるようになります。